



第 1373 回例会報告

平成26年7月17日(木)晴

会長挨拶

会長 吉澤邦雄

諏訪湖浄化

本日は後程、斉藤様に「諏訪湖浄化について」卓話をしていただきますが、諏訪湖のほとりで生まれ育った身として嘗ての諏訪湖について少し話をさせていただきます。

私の家は代々諏訪湖で漁師をしておりまして、物心ついた頃から度々、泥船で漁(流し網漁)に出かける両親に付いて湖水(当時、湖水と呼んでいた)に出ておりました。まだアオコも殆ど存在しない昭和30年代初頭の頃です。

当時、下諏訪には豊田の渋のエゴに匹敵する高浜のエゴと呼ばれる水生植物(特に沈水植物)の繁茂する遠浅の入り江が存在しました。初夏の湖上には夥しい数のトンボが舞い、湖面には孵化したばかりの鮒やタナゴの稚魚が真っ黒になる程、群れていたのも丁度この頃です。この一帯は水深も浅く船の動きに合わせて湖底を逃げ回る大きな親魚も鮮明に見ることができました。今問題になっているヒシも有りましたがポツンポツンと散見できる程度で、子供心に綺麗な草だなど思った程です。とにかくこの一帯は沈水植物の種類も多く、水は飲んでもいいかなと思えるくらい澄んでい

たのです。これが私の諏訪湖における原風景です。

今となっては中々想像できない湖水の状況ですが、それでも多くの人々が関わった努力のおかげで、水質も一時より大分良くなりました。後程、現状についてはもっと詳しいお話をお聞きできると思いますが、湖中の貧酸素化の問題等も含め、諏訪湖の環境はどうあるべきか、今後、遠浅の水辺の復活と共にこれによって生ずる水生植物を中心とした生物の多様性についてももっともっと考えていく必要があるのではないのでしょうか。

以上、少々所感を含め述べさせていただきます。

◇幹事報告◇

【連絡事項】

- 26回ライラ開催の案内が飯田ロータリークラブより届いています。
開催日9月27日(土)28日(日)です。参加希望の方は幹事または青少年奉仕委員会までお申し出ください
- 7月13日インターアクト地区大会参加のお礼文が届いています。

【受領文書】

- ハイライトよねやまが届きました。
岡谷ロータリークラブ、諏訪ロータリークラブからウ

■出席報告

会員数	37名
出席対象	37名
出席者数	30名
出席率	81.0%
前回修正	86.0%

■ニコニコBOX

8名	9,000円
累計	76,000円
目標額	60万円
達成率	12.6%

■今週のことば

斉藤様、本日はよろしくお願ひいたします。

吉澤邦雄



イークリーが届きました

第 1373 回例会

社会奉仕委員会担当例会

本日は地方事務所の斉藤昌明さまをお迎えし
諏訪湖の現状と浄化活動の現状についてお話をお聞きしました。

「人と生き物が共存する諏訪湖」目指して

長野県諏訪地方事務所 環境課
企画幹 斉藤 昌明

諏訪湖の水質は、昭和30年代の高度経済成長に伴う流域の人口増、工業の進出等により悪化しましたが、その後下水道の普及等により、昭和53年をピークに中長期的には改善の方向に進んできています。

それに伴い、アオコの大発生がなくなるなどの改善が見られるようになりましたが、新たな問題も発生してきています。

それが、「湖底の貧酸素層の拡大」と「ヒシの大量繁茂」です。

「貧酸素層」とは、水に溶けている酸素の量が魚類の生息に影響がでる程度まで減っている状況をいいます。水中の酸素は水面において大気から供給されますが、湖面が太陽光等により熱せられると軽くなり、酸素を多く含んだ上の水が下に行かなくなるため、下の方の酸素が少なくなり発生します。このような現象は昔から諏訪湖でも発生はしていましたが、近年、発生する範囲が拡大し期間も長くなってきており、それにより魚や貝等の水生生物の生育に大きな影響を与えています。拡大の原因、対策については未だ判明していないのが現状です。

また、「ヒシ」は1年生の浮葉植物で春ごろ湖底の種子から発芽し、葉を湖面に広げますが、秋には種をつくって枯れてしまいます。このヒシがアオコが減り始めた1999年頃から増え始め、平成25年度には湖面の14%を覆うまで増えています。

これにより、諏訪湖では、枯死による水質の悪

化・悪臭の発生、漁船等の運航の支障、景観の悪化などの影響が発生しています。

このようなヒシの対策として、県では水草刈取船によるヒシの刈取を実施していますし、諏訪湖環境改善行動会議、岡谷市、諏訪市、その他様々な団体による人力によるヒシの刈取も行われています。

ヒシの刈取の効果としては、汚濁物質である窒素やリンを吸収したヒシを取り除くことによる水質浄化の効果、他の水生植物の再生の促進、湖底の貧酸素の発生の抑制、漁船等の運航障害の改善、景観の改善があります。

また、このようなヒシの刈取とは別にヒシの繁茂面積を減らす対策として、ヒシの種子を諏訪湖から除去するための調査も本年度から始めています。これは、ヒシの種子を効率的に除去する手法の検討と種子を除去する効果を調査するものです。

次に「諏訪湖環境改善行動会議」ですが、これは諏訪湖の環境改善を行い地域を活性化するため、行政機関、関係団体、及び市民団体が一体となり協働して諏訪湖の環境改善に取り組むことを目的に平成24年11月に設立され、行動計画を立て行動を行ってきました。

今年度の行動としては、ヒシの除去活動の実施、貧酸素に関する情報収集、稚エビの放流、漁場の活性化のための調査・研究、流木・支障木の除去活動を実施する予定です。

諏訪湖は、湖沼水質保全特別措置法による指定湖沼として水質保全計画を策定し、水質浄化の取り組みを進めています。タイトルにある「人と生き物が共存する諏訪湖」を目指してはこの計画のキャッチフレーズとして定めたものです。引き続きこの計画に基づき諏訪湖の水質浄化に努めていきたいと考えております。

【訃報】

長崎政直会員のご母堂 長崎清子様が、逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます